

研究課題名 2016-0539「泌尿器腫瘍に対する化学療法における制吐支持療法の効果に関する比較解析」に関する情報公開

1. 研究の対象

2000年1月1日から2017年3月13日（2017年3月13日までに1コース目の治療が終了した方）に当院で泌尿器腫瘍（精巣胚細胞腫瘍もしくは尿路上皮がん等）に対してがん化学療法〔BEP（ブレオマイシン、エトポシド、シスプラチン）療法、VIP（エトポシド、イホスファミド、シスプラチン）療法、VeIP（ビンブラスチン、イホスファミド、シスプラチン）療法、EP（エトポシド、シスプラチン）療法、GC（ゲムシタビン、シスプラチンもしくはカルボプラチン）療法等〕を受けられた方

2. 研究目的・方法

<研究の目的・意義>

2010年のアプレピタントの登場およびがん診療ガイドライン制吐療法の公開により、がん化学療法における制吐療法は整備され、悪心・嘔吐で苦慮することは少なくなりました。泌尿器科病棟において施行されているプラチナ製剤を用いたがん化学療法〔BEP療法、VIP療法、VeIP療法、EP療法、GC療法等〕は、悪心・嘔吐の発現率が高いとされています。GC療法では腎機能の程度に応じてシスプラチンの単回投与、分割投与もしくはカルボプラチン投与の選択がなされています。

本研究では、泌尿器腫瘍に対する化学療法施行患者さんにおいて、制吐剤の使用が治療ガイドライン通りに使用されているかどうか、制吐剤使用時と使用後で悪心・嘔吐がどれくらい発現しているか、また有害事象がどれくらい発現しているか調査することで、患者個々に則した適切な制吐療法が実施されるように役立てます。

<研究方法>

2000年1月1日から2017年3月13日の間に名古屋大学医学部附属病院で泌尿器腫瘍（精巣胚細胞腫瘍もしくは尿路上皮がん等）に対してプラチナ製剤を用いたがん化学療法〔BEP療法、VIP療法、VeIP療法、EP療法、GC療法等〕を施行した患者さんを対象に、診療情報、予防的に用いた制吐剤の薬剤、投与後の悪心、嘔吐の発現状況、追加制吐薬の使用等について電子カルテを用いて過去の情報を調査します。

研究のために検査を追加するなど、患者さんの負担になるようなことは行いません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療番号、生年月日、年齢、性別、イニシャル、病歴、治療歴、有害事象等の発生状況、臨床検査値（血液・生理検査等）、生活歴（飲酒、喫煙等）等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

連絡先担当者：名古屋大学大学院医学系研究科 野田幸裕

（名城大学薬学部・大学院薬学研究科 病態解析学 I 教授）

住所：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部附属病院外来棟 4 階

名城大学薬学部サテライトセミナー室

電話：052-741-6022

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科 野田幸裕

（名城大学薬学部・大学院薬学研究科 病態解析学 I 教授）

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院薬剤部 山田清文